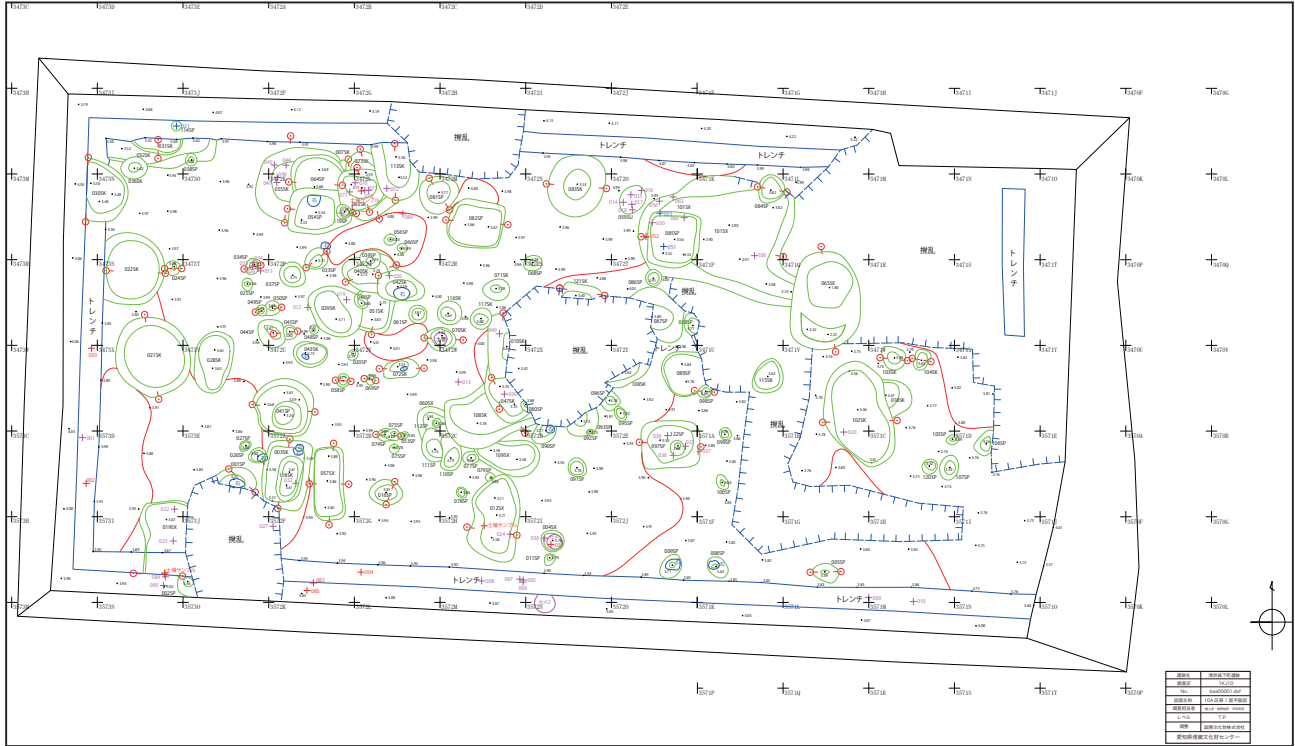


c 各種図面

各種遺構図面データは DXF 形式のデジタルデータで保管する。

- 基本平面図（最終的な遺構の位置情報となるもの。グリッド表示が必須）
- 基本断面図（調査区基本土層図。スケール・バー表示が必須）
- 個別補足図（竪穴建物跡・井戸や、遺構内遺構があるなど複雑な状況の場合。平面・断面図・出土状態図を効果的に配置する）。



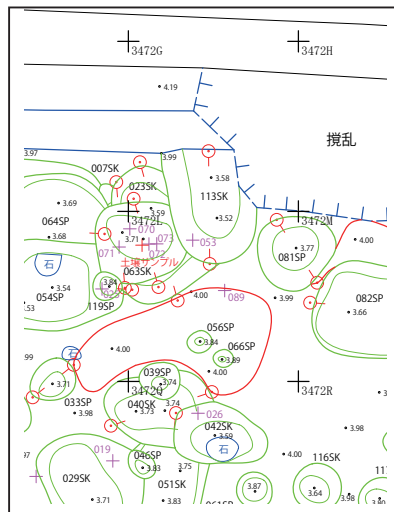
↑基本平面図（分割せず、なるべく1つのデータとして作成）

基本平面図に付すインデックス→

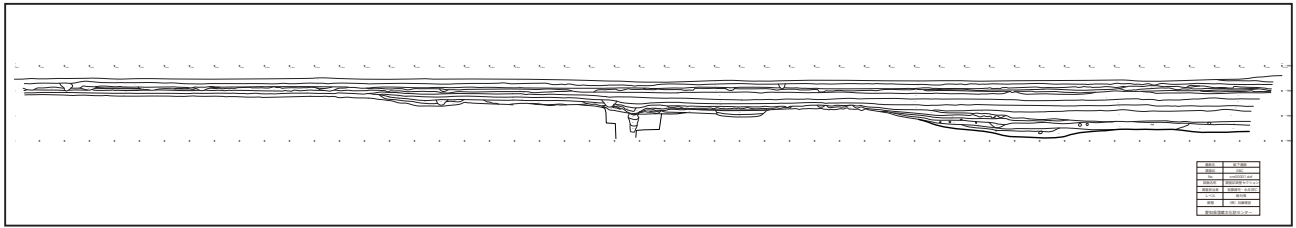
遺跡名	清洲城下町遺跡
調査区	1KJ10
No.	bas00001.dxf
図面名称	10A区第1面平面図
調査担当者	横上昇・奥野紀典・伊藤和彦
レベル	T.P.
調整	国際文化財株式会社
愛知県埋蔵文化財センター	

平面図線種・記号の仕様

線 種	
	実線
	破線
	特殊線
記 号	
	メッシュ杭
	セクションポイント
	土器出土地点
	レベル・標高点
	攪乱
	トレンチ
	グリッド



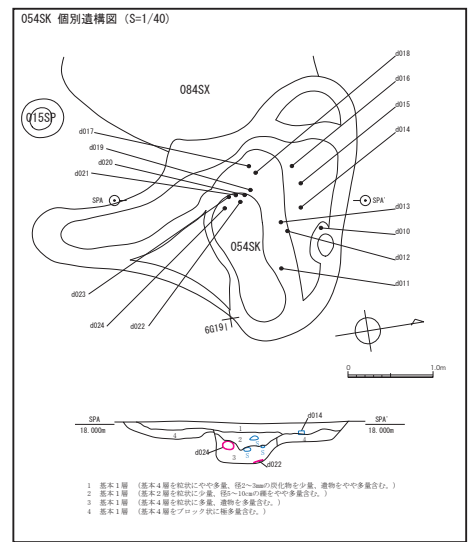
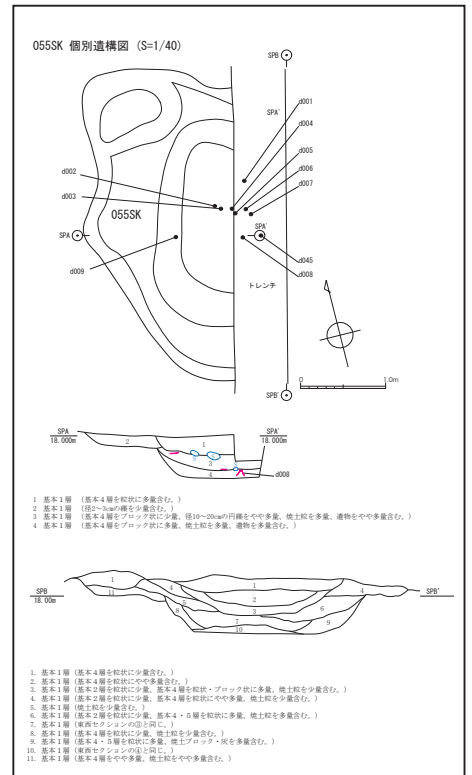
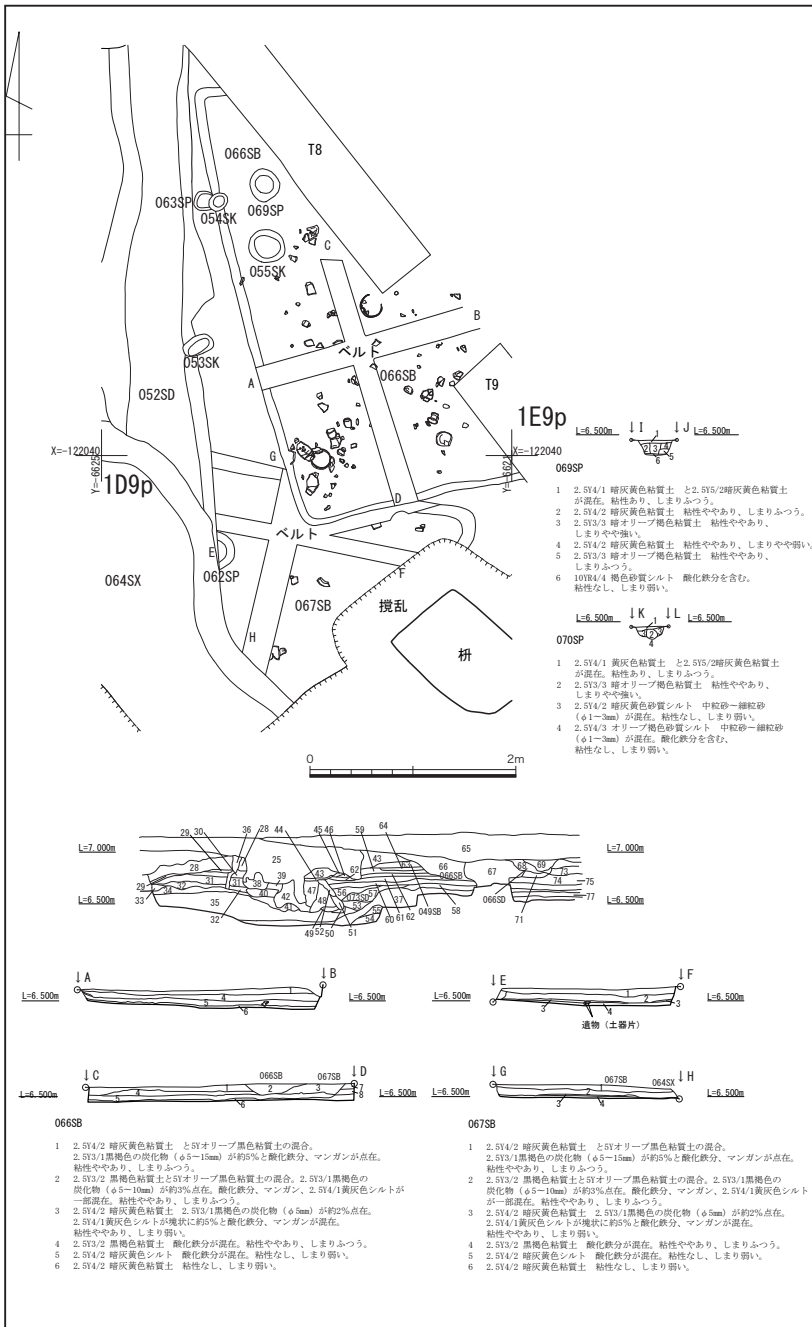
清洲城下町遺跡 10 の遺構平面図



↑基本断面図（平面図同様に分割せず、なるべく1つのデータとして作成）

断面図に付すインデックス→

遺跡名	姫下遺跡
調査区	O6C
No.	cro00001.dxf
図面名称	調査区西壁セクション
調査担当者	宮腰健司・永井邦仁
レベル	T.P.
調整	(株)加藤建設
愛知県埋蔵文化財センター	



↑個別補足図（平面図・断面図・出土状態図を1ファイルに配置。

遺物出土地点を表示。なるべく縮尺を統一する。スケール・バーを必ず入れる。)

デジタルマッピングデータ取得仕様一覧

図式分類コード	データタイプ	図式分類名称	色	線種	線号	データ入力仕様
1001	E2	遺構上端	緑	実線	6	遺構の上端を時計回りに取得する
10011	E2	遺構上端 (陰線)		実線	6	ベルトの下部、地表面にでていない部分を時計回りに取得する
1002	E2	遺構中端	緑	実線	3	遺構の中端を時計回りに取得する
10021	E2	遺構中端 (陰線)		実線	3	ベルトの下部、地表面にでていない部分を時計回りに取得する
1003	E2	遺構下端	緑	実線	2	遺構下端を時計回りに取得する
10031	E2	遺構下端 (陰線)		実線	2	ベルトの下部、地表面にでていない部分を時計回りに取得する
2001	E2	石	青	実線	4	石の外周を時計回りに取得する
2002	E2	石 (稜線)	青	実線	2	石の形状を表現するための線
2003	E2	木	茶	実線	4	木の外周を時計回りに取得する
2004	E2	木 (稜線)	茶	実線	2	木の形状を表現するための線
2005	E2	土器・瓦	ピンク	実線	4	土器の外周を時計回りに取得する
2006	E2	土器・瓦 (稜線)	ピンク	実線	2	土器の形状を表現するための線
3001	E2	ベルト	青	実線	2	遺構内部において地層調査のため残した部分
3002	E2	攪乱	青	特殊線	6	攪乱の上場を時計回りに取得する
3003	E2	トレンチ	青	実線	6	トレンチ調査用の溝
3004	E2	調査区	黒	実線	4	調査範囲
3005	E5	メッシュ杭	赤		2	5m座標・シンボルを配置する
3006	E5	セクションポイント	赤		4	座標値入力によりシンボルを配置する
3007	E5・E7	土器出土地点	赤		4	座標値入力によりシンボルを配置し、点名を注記する
4001	E2	等高線 (計曲線)	朱	実線	6	主曲線より起算して5m目ごとの主曲線を6号にて表示
40011	E2	等高線 (計曲陰線)		実線	6	遺構上端と下端の間は陰線にて図面上には表示しない
4002	E2	等高線 (主曲線)	朱	実線	3	平均海面より起算して10cmごとに表示する
40021	E2	等高線 (主曲陰線)		実線	3	遺構上端と下端の間は陰線にて取得し図面上には表示しない
4003	E2	等高線 (間曲線)	朱	破線	3	主曲線だけでは表現困難な場合、主曲線間隔の1/2にて表示する
40031	E2	等高線 (間曲陰線)		破線	3	遺構上端と下端の間は陰線にて取得し図面上には表示しない
4004	E5・E7	レベル (標高点)	黒		4	後に遺構の縦断図が描けるように表示する
5001	E5・E7	注記 (攪乱)	黒		4	攪乱の中央に「攪乱」の表記またはシンボルにて表示する
5002	E5・E7	注記 (トレンチ)	黒		4	トレンチ内部に「T」の表記またはシンボルにて表示する
5003	E7	注記 (遺構番号)	黒		6	注記にて表示する
5004	E7	等高線数値	黒		4	等高線数値の文字の下はデータを間断しない
6001	E2	整飾 (外枠)	黒	実線	10	
6002	E2	整飾 (内枠)	黒	実線	3	
6003	E2	グリッド	黒	実線	3	
6004	E7	メッシュ番号	黒		6	
6005	E7	座標値	黒		3	
7001	E2	その他		黒	実線	6

データタイプ

データタイプ	レコードタイプ
面	E1
線	E2
円	E3
円弧	E4
点	E5
方向	E6
注記	E7
属性	E8

線の区分

線号	線の太さ	備考
1号	0.05mm	
2号	0.10mm	
3号	0.15mm	
4号	0.20mm	
5号	0.25mm	
6号	0.30mm	
10号	0.50mm	線の太さの許容誤差は、各線号を通じて±0.025mmとする

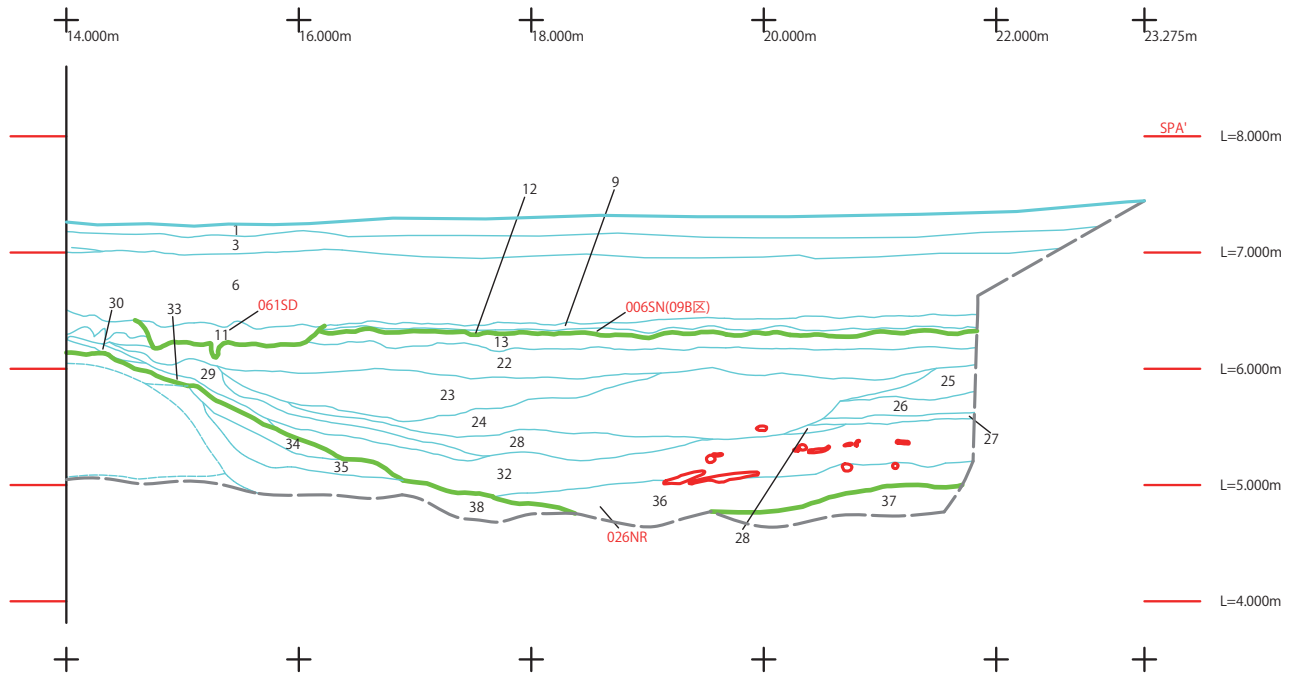
注記サイズ

分類コード	表示対象	字大 (mm)	字隔 (mm)
3007	土器出土地点	2.0	0.0
4004	レベル (標高点)	1.5	0.0
5001	攪乱	3.0	3.0
5002	トレンチ	2.0	0.0
5003	遺構番号	2.0	0.0
5004	等高線数値	1.5	0.0
6004	メッシュ番号	4.0	0.0
6005	座標値	1.5	0.0

海拔標高については基本的に
T.P. (東京湾平均海面高度) を使用する

2次元断面図線種・記号の仕様 (Adobe イラストレーターの場合)

- 2次元断面図 <レイヤー>
- 100：枠・キャプション 他
 - 200：断面実測線
 - 201：レベル・基点と距離など
 - 202：遺構番号
 - 300：層名キャプション (土層説明)
 - 301：層位番号 (図中)



- 22. 10YR3/2 黒褐色 粘土。極細粒砂。炭化物。026NR。NR-1層下部。
- 23. 10YR3/1 黒褐色 粘土。極細粒砂。炭化物。026NR。NR-2a層。
- 24. 10YR2/1 黒色 粘土。炭化物。026NR。NR-2b層。
- 25. 10YR2/2 黒褐色 粘土。極細粒砂。炭化物。026NR。NR-3a層。
- 26. 2.5Y3/2 黒褐色 粘土。5Y7/1灰白色粘土ブロック。植物質(草本類)非常に多い。026NR。NR-3a層。
- 27. 2.5Y2/1 黒色 粘土。5Y5/1灰色粘土ブロック。026NR。NR-3a層。
- 28. 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土。7.5Y4/1灰色粘土の混土。炭化物。026NR。NR-3a層。
- 29. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 粘土。10YR2/1黒色粘土の混土。026NR。
- 30. 10YR5/1 褐灰色 シルト。5Y5/1灰色粘土の混土。026NR。
- 31. 7.5Y6/1 灰色 シルト。5Y5/1灰色粘土の混土。026NR。
- 32. 7.5Y4/1 灰色 粘土。流木。木製品多く出土。炭化物。026NR。NR-3b層。
- 33. 10YR4/2 灰黄色 粘質シルト。026NR。NR-3b層。
- 34. 7.5Y4/1 灰色 極細粒砂。炭化物。
- 35. N3/ 灰色 極細粒砂。細粒砂。炭化物。
- 36. 5Y3/2 オリーブ黒色 粘質シルト。極細粒砂～細粒砂。026NR。NR-3c層。
- 37. 10Y8/1 灰白色 中礫。炭化物。
- 38. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 極細粒砂。細礫。炭化物。流木小片あり。
- 39. 7.5Y7/1 灰白色 細粒砂。
- 40. 7.5Y7/2 灰白色 極細粒砂。7.5Y3/2オリーブ黒色極細粒砂とラミナ堆積。植物質若干含む。

(記録者 永井邦仁・安生素明)

e 写真

報告書写真や活用は、基本的にデジタル画像（成果写真）を基にする。
データの取り扱いについては下記を必ず参照。

『埋蔵文化財保護行政におけるデジタル技術の導入について1』（報告）
(http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/pdf/hokoku_11.pdf)

保存は JPEG と TIFF。

JPEG データは撮影時のもので、改変は認めない（ファイル名変更のみ）。
RAW 方式で撮影したものは、TIFF への現像処理を行ったうえで納品。

写真は、調査進行記録（工程写真 prg）と調査成果（成果写真 rec）、現像した写真（spe）、
その他 (etc) に区別する。

○工程写真は、会議資料や HP、業務内容写真などに利用することを目的とする。

有効画素数 1000 万画素以上のデジタルカメラを使用。

2 ～ 3Mb を目安とする。

1800 ～ 2000 ピクセル前後が望ましい。JPEG 標準圧縮で保存。

○成果写真は、報告書などの記録用として利用することを目的とする。

したがって画像は高画質が求められる。

撮影に際しては、三脚等を使用し、手ブレ等の防止に注意を払うこと。

成果写真のうち、特に重要な写真（特に管理員が指示した写真）は RAW データで
撮影を行うこと。

RAW データでの撮影枚数は、成果写真全体の 10% 程度とする。 RAW データ
で撮影したものは、現像作業（ホワイトバランス調整・レンズ補正等）を行った上で、
TIFF 形式で保存する（100MB ～ 150MB が目安）。

* 成果写真に使用する一眼レフデジタルカメラの仕様は以下のとおりである。

(1) 一眼レフデジタルカメラ

(2) ボディ イメージセンサーサイズ：フルサイズ（約 36 mm× 24 mm）

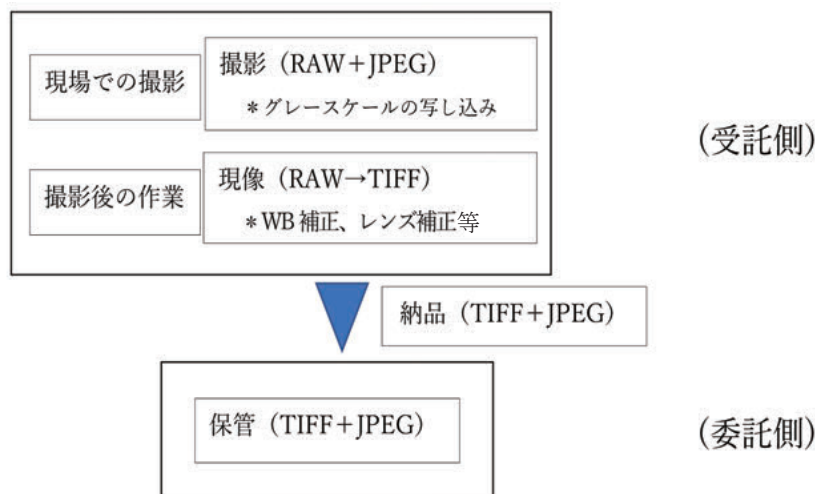
有効画素数：2000 万画素以上

セルフクリーニング機能付き

(3) レンズ 広角系ズームレンズ（24 ～ 70mm）と

望遠系ズームレンズ（70 ～ 300mm）

○必要に応じて動画を撮影する。





写真撮影は三脚使用を基本とする



手持ちで撮影する時の姿勢

f 電子納品データ整理規則

<< 納品媒体 >>

電子納品の媒体は CD-R・DVD・ハードディスクをいずれかを利用する。
媒体の選択は、データ容量に準じて、受発注者間協議にて決定すること。
また下記の内容を媒体に添付（明記）すること。

* ラベル(案)

平成〇〇年度遺跡調査業務委託その 1(〇〇遺跡) 平成〇〇年〇月(納品日時) 発注者:愛知県埋蔵文化財センター 受注者:〇〇〇〇

<< フォルダー構成およびファイル名の付け方 >>

フォルダー内を階層化しない。

フォルダー名は、大文字。

各フォルダーには、ファイル名一覧のインデックスファイルを作成し、格納する。

ファイル名は、拡張子を含めて全て小文字。

コード 3 桁 + 半角英数字 5 桁 + 拡張子 「〇〇〇×××××.拡張子」とする。

半角英数字 5 桁はコードごとの通番を基本とする。